

学科	食物栄養科	コース		学年	1	履修	必修
教科	家庭	科目名	家庭総合	単位数	4	時数	140
教科書名（発行所）		家庭総合（実教出版）		副教材（発行所）		ニューライブラリー家庭科2025（実教出版）	
目標	・人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭、衣食住、消費や環境など、生活を主体的に営むために科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を体験的に身に付けるようにする。 ・家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定、解決策を構想・実践、考察するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。 ・家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定、解決策を構想・実践、考察するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う						

(注) 評価の観点とは、Ⅰ「知識・技能」Ⅱ「思考・判断・表現」Ⅲ「主体的に取り組む態度」を示す。

学期	月	内容のまとめ	単元 (実習項目)	単元の目標 (具体的目標)	評価の観点			配当 時数	主な評価方法
					I	II	III		
1	4	衣生活をつくる	人と衣服のかかわり 衣服の素材の種類と特徴 衣服の選択から管理まで 被服製作実習 (計量カップ袋、実習着袋) 持続可能な衣生活をつくる	・人はなぜ衣服を着るのかを理解する。 ・衣服が持つ機能や安全性についての知識を身につける。 ・だれもが快適な衣生活を送るための要因を理解する。 ・衣服素材の種類、繊維の種類と特徴、衣服素材の性能について理解し、用途に応じた素材の選択ができるようになる。 ・衣服の加工技術について理解する。 ・衣服の表示にはどのような種類があるのか、なぜついているのかを理解し、購入から洗濯などの管理に役立てる。 ・洗剤・漂白剤・防虫剤などの種類について理解し、衣服の種類に応じた適切な選択や保管ができるようになる。 ・衣服製作を通して、衣服の構成や基礎的な縫製技術を身につける。 ・私たちの衣生活が環境や世界とどのようにつながっているのかを理解する。	○	○	○	18	1学期中間考査 1学期期末考査 作品評価 授業プリント提出
	5								
	6	これからの人生について考えてみよう	自分の未来予想図を描こう ～生涯発達と発達課題～ これからの人生をデザインする	・ライフステージごとの特徴・課題を理解する。 ・自分の将来や現状を客観的に捉え、人生を展望できるようにする。 ・自分の将来とこれからの社会について考えることができるようになる。 ・人生設計に必要な要素を理解する。	○	○	○	2	
	7	食生活をつくる	技術検定4級に向けて	・筆記試験に備えた内容を理解する。	○	○	○	1	
			人と食物のかかわり	・食事の意義を理解する。 ・日本の食文化形成および和食の特徴を理解する。	○	○	○	5	
			私たちの食生活	・自身の食生活の現状把握と今後の課題を理解する。 ・健康で豊かな食生活をはくくむための気づきや工夫を理解する。	○	○	○	5	
8	食生活をつくる	栄養と食品のかかわり	・栄養素の種類と働きやそれぞれの栄養素が多く含まれる食品についての基礎的な知識を身につける。	○	○	○	22	2学期中間考査 2学期期末考査 授業プリント提出	
9		家庭科技術検定3級に向けて	・筆記試験に備えた内容を理解する。	○	○	○	2		
10		食品の選び方と安全	・季節ごと・旬の食材があることを理解する。 ・表示の読み方を理解し、情報を正確に把握する。 ・食品を見分け、よりよい選択ができるようになる。	○	○	○	14		
11	自分らしい生き方と家族	食事の計画と調理	・家族の食生活の計画と管理ができるようになる。 ・衛生と安全に配慮して、調理することができるようになる。 ・年齢や性別ごとに異なる一日に必要な食事摂取量と、それを満たすための食品の概量を理解する。	○	○	○	12		
		これからの食生活を考える	・日本の食料自給率の現状を理解する。・日本の食糧事情を解決するためにできることをみつける。 ・情報に惑われないで安全な食品を選択できるようにする。	○	○	○	8		
12	子どもとかかわる	自立と共生 ライフキャリア 共に生きる家族 家族に関する法理	子どもとは 子どもの発達 子どもの生活 はくくむ 子どものための社会福祉	・10代の健闘が、将来生まれてくる子どもにつながっていることを理解する。・子どもの世界から自己理解を深め、子どもの誕生、子どもの心身の発達と発達について理解する。・子どもの食生活、衣生活、遊びについて理解を深める。・子どもを養い、育てる役割について理解し、親子関係の課題、国や地域の社会的支援について理解する。・子どもの権利と福祉の歩みについて理解する。	○	○	○		10
2	1	高齢者とかかわる	高齢者を知る 高齢者の自立を支える 高齢社会を支えるしくみ	・高齢者、高齢社会への理解を世界の動向からも深める。高齢者の心身の特性や生活を総合的に理解する。 ・高齢期の心身の変化による生活行動の不安に気づき、改善をする。・要介護の高齢者に対して必要な心がけを理解する。 ・介護保険制度について理解する。・介護をめぐる課題について理解する。	○	○	○	6	
	2	社会とかかわる	支えあって生きる	・個人や家庭生活を支える社会保障制度や社会福祉についての重要性を理解し、将来に向けた課題に気づく。 ・消費行動において、意思決定のプロセスの重要であることを認識し、情報リテラシーを身につける大切さを理解する。 ・契約、多様な販売方法や支払方法、問題解決法について理解し、被害にあった場合の解決方法についても理解する。 ・消費者の権利と責任を理解し、消費の自主的に行動することの必要性を理解する。持続可能な社会をめざした行動を考える。	○	○	○	1	
	3	消費行動を考える	消費行動と意思決定、消費生活の現状と課題 ・消費者の権利と責任、ライフスタイルと環境	・消費行動において、意思決定のプロセスの重要であることを認識し、情報リテラシーを身につける大切さを理解する。 ・契約、多様な販売方法や支払方法、問題解決法について理解し、被害にあった場合の解決方法についても理解する。 ・消費者の権利と責任を理解し、消費の自主的に行動することの必要性を理解する。持続可能な社会をめざした行動を考える。	○	○	○	10	
	4	経済的に自立する	暮らしと経済 将来のライフプランニング	・家庭経済・国民経済・国際経済の関わり合いに基づき、家庭の収入や支出・暮らしの必要性について理解する。 ・住まいの機能、人の生活がその機能とどう関わっているかを理解する。・健康的な室内環境の要素を理解する。 ・安全で長く住み続けられるために必要な適切な管理の方法を理解する。・家庭内事故や災害について学習し安全な住まい環境について理解する。・住まいの活用政策の目的を理解する。・まちの課題について自分なりに解決案を考えることで、一市民としてまちづくりに参画する姿勢を持つ。	○	○	○	2	
3	2	住生活をつくる	健康に配慮した快適な室内環境 安全な住まい 持続可能な住まいづくり	・住まいの機能、人の生活がその機能とどう関わっているかを理解する。 ・安全で長く住み続けられるために必要な適切な管理の方法を理解する。・家庭内事故や災害について学習し安全な住まい環境について理解する。・住まいの活用政策の目的を理解する。・まちの課題について自分なりに解決案を考えることで、一市民としてまちづくりに参画する姿勢を持つ。	○	○	○	10	
	3	生活設計		・家庭総合で学んだことを元に、具体的な人生設計をする。 ・仕事を選ぶうえで、大事にしたいことはなにか考える。	○	○	○	2	

140

【観点別評価】

[illegible]

学科	商業科・生活福祉科	コース		学年	2	履修	必修
教科	家庭	科目名	家庭総合	単位数	1	時数	35
教科書名（発行所）	家庭総合（実教出版）			副教材（発行所）	ニューライブラリー２０２５（実教出版）		
目標	<p>・人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭、衣食住、消費や環境など、生活を主体的に営むために科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を体験的に身に付けるようにする。</p> <p>・家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定、解決策を構想・実践、考察するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。</p>						

期	月	内容のまとめ	単元 (実習項目)	単元の目標 (具体的目標)	評価の観点			配 当 時 数	主な評価方法
					I	II	III		
1	4	自分らしい生き方と家族	自立と共生 ライフキャリア 共に生きる家族 家族に関する法律	<ul style="list-style-type: none"> 自立の種類とそれぞれの具体的な内容を把握する。 男女共同参画社会の実現をめざす歩みと社会的背景について理解し、どのような青年期を生きるかを考えることができるようにする。 労働の種類、またその意義について多面的に検討できるようにする。 結婚、家族・家庭の意義と機能について理解する。 時代とともに変化する家族・家庭について学習し、現在の家族の抱える課題などを理解する。 労働を支える社会や地域のしくみを知ることで、私たちもその一員であるという自覚を持つことができるようにする。 家族に関する法律の理念や背景、改正点について理解する。 法律は自分たち一人ひとりの認識のもとづく社会の要請を受けて検討、改正されていくことを理解する。 	○	○	○	10	1学期期末考查 授業プリント提出
	5								
	6								
	7	これから的人生について考えてみよう	自分の未来予想図を描こう ～生涯発達と発達課題～ これからの人生をデザインする	<ul style="list-style-type: none"> ライフステージごとの特徴・課題を理解する。 自分の特徴や長所に気づき、人生を展望できるようにする。 人生設計に必要な要素を理解する。 自分の将来とこれからの社会について考えることができるようにする。 	○	○	○	2	
	2	8	高齢者とかかわる	高齢社会に生きる 高齢者を知る 高齢者の自立を支える 高齢社会を支えるしくみ	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者、高齢社会への理解を世界の動向からも深める。 高齢者の心身の特徴や生活を客観的に理解する。 高齢期の心身の变化による生活行動の不安に気づき、改善をする。 要介護の高齢者に対して必要な心がけを理解する。 介護保険制度について理解する。 介護をめぐる課題について理解する。 	○	○	○	10
9									
10		社会とかかわる	支えあって生きる 共生社会を生きる	<ul style="list-style-type: none"> 個人や家庭生活を支える社会保障制度や社会福祉についての重要性を理解する。 将来に向けた課題に気づく。 支え合う社会の大切さや 	○	○	○	1	
3	11	消費行動を考える	消費行動と意思決定 消費生活の現状と課題 消費者の権利と責任 ライフスタイルと環境	<ul style="list-style-type: none"> 消費行動において、意思決定のプロセスが重要であることを認識する。 情報リテラシーを身につける大切さを理解する。 契約、多様な販売方法や支払方法、問題解決法について理解する。また、被害にあった場合の解決方法についても理解する。 消費者の権利と責任について理解し、消費において自主的に行動することの必要性を理解する。 資源・環境に配慮した生活スタイルについて考え、実行できる。 日々の暮らしの中で、持続可能な社会をめざした行動をすることができるようにする。 	○	○	○	10	3学期期末考查 授業プリント提出
	12								
	1	経済的に自立する	暮らしと経済 将来のライフプランニング	<ul style="list-style-type: none"> 家庭経済を国民経済、国際経済の関係性に気づく。 家庭の収入や支出、予算生活の必要性について理解する。 生活設計とかかわらせて、長期の経済設計の必要性について理解する。 	○	○	○	2	
3									

[illegible]

学科	定時制 機械	コース	学年	2	履修	必修	
教科	家庭	科目名	家庭基礎	単位数	2	時数	70
教科書名（発行所）	家庭基礎 （実教出版）			副教材（発行所）	なし		
目標	<p>・人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭、衣食住、消費や環境など、生活を主体的に営むために科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を体験的に身に付けるようにする。</p> <p>・家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定、解決策を構想・実践、考察するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。</p> <p>・様々な人々と協働し、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。</p>						

学期	月	内容のまとめ	単元 (実習項目)	単元の目標 (具体的目標)	評価の観点			配当 時数	主な評価方法
					I	II	III		
1	4	自分らしい生き方と家族	自立と共生 ライフキャリア 共に生きる家族 家族に関する法律	<ul style="list-style-type: none"> 自立の経緯とそれぞれの具体的な内容を把握する。 男女共同参画社会の実現をめざす歩みと社会的背景について理解し、どのような青年期を生きるかを考えることができるようになる。 婚姻の経緯、またその発展について多面的に検討できるようにする。 結婚・恋愛・家庭の発展や機能について理解する。 母体とともに誕生する養育・看護について学習し、現在の家族の抱える課題などを理解する。 労働を支える社会や地域へのくみをとることで、私たちもその一員であるという自覚を持つことができるようにする。 家族に関する法律の理由と背景、改正点について理解する。 法律は自分たち一人ひとりの関係にもとづく社会の要請を受けて検討、改正されていくことを理解する。 	○	○	○	10	授業プリント提出 1学期期末考査
	5		高齢者社会に生きる 高齢者を知る 高齢者の自立を支える 高齢社会を支えるしくみ	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者、高齢社会への理解を世界の動向からも深める。 高齢者の心身の特性や生活習慣について理解する。 高齢者の心身の老化による生活行動の変化に着き、改善する。 要介護の高齢者に対して必要な助けを理解する。 介護保険制度について理解する。 介護をめぐる課題について理解する。 	○	○	○	8	
	6		社会とかわかる 支えあって生きる 共生社会を生きる 日本の食文化の形成	<ul style="list-style-type: none"> 個人や家庭生活を支える社会保険制度や社会福祉についての重要性を理解する。 世帯に内包的な課題に気づく。 支え合う社会の大切さやボランティア活動を理解し、ボランティア活動に興味・関心が持てるようにし、実際の活動につなげる。 食事の健康を理解する。 日本の食文化や食環境と食生活の健康を理解する。 	○	○	○	1	
	7	私たちの食生活	<ul style="list-style-type: none"> 自給の食生活の現状把握と今後の課題を理解する。 健康で豊かな食生活を営むべく自給の気づきや工夫を理解する。 	○	○	○	1		
		食生活をつくる	栄養と食品のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> 栄養素の種類と働きやそれぞれの栄養素が多く含まれる食品についての基礎的な知識を身につける。 	○	○	○	3	
			食品の選び方と安全	<ul style="list-style-type: none"> 季節ごとに旬の食材があることを理解する。 表示の読み方を理解し、情報を正確に把握する。 食品を見分け、よりよい選択ができるようになる。 	○	○	○	2	
2	8	食生活をつくる	食事の計画と調理	<ul style="list-style-type: none"> 家族の食生活の計画と管理ができるようになる。 食生活に配慮し、関与することができるようになる。 年齢や性別ごとに異なる一日に必要な食事摂取量と、それを満たすための食品の量を理解する。 	○	○	○	3	2学期期末考査 授業プリント提出
	これらの食生活を考える		<ul style="list-style-type: none"> 日本の食料自給率の現状を理解する。 日本の食糧問題を解決するためにできることと身につける。・情報に感化されることなく安全な食生活を選択できるようにする。 	○	○	○	1		
	子どもとかわかる		子どもとは 子どもの発達 子どもの生活 子どもをなくむ 子どものための社会福祉	<ul style="list-style-type: none"> 育児を学ぶ経験について理解する。 10代の子供が、将来生まれてくる子どもになつていくことを理解する。 子どもも世界と出会うことによって自己理解を深める。 子どもの誕生、子どもの心身の発達と特性について理解する。 子どもは、親や養育者などとの身近な大人のかかわりあいのなかで発達していくことを理解する。 子どもは生み、育てる経験について理解する。 親子関係の課題を理解し、解決に向けてできることを考えることができる。子育てのための国や地域の社会的支援について理解する。 子どもの権利と福祉の歩みについて理解する。 	○	○	○	10	
	11	衣生活をつくる	人と衣服のかかわり 衣服の素材の種類と特徴 衣服の選択から管理まで 被服製作 持続可能な衣生活をつくる	<ul style="list-style-type: none"> 人はなぜ衣服を着るのかを理解する。 衣服が持つ機能や安全性についての知識を身につける。 どれも快適な衣生活を送るための要因を理解する。 衣服素材の特性・機能の特性・性能、衣服素材の性能について理解し用途に応じた素材の選択ができるようにする。 衣服の加工技術について理解する。 衣服の表示にはどのような情報があるのか、なぜつけているのかを理解し、購入から洗濯までの管理を設立する。 洗剤・漂白剤・乾燥剤などの種類について理解し、衣服の繊維に合った適切な選択や保管ができるようにする。 衣服製作を通して、衣服の構成や基礎的な縫製技術を身につける。 私たちの衣生活が環境と世界とどのようにつながっているのかを理解する。 	○	○	○	11	
			消費行動を考える	消費行動と意思決定 消費生活の現状と課題 消費者の権利と責任 ライフスタイルと環境	<ul style="list-style-type: none"> 消費行動において意思決定のプロセスが重要であることを認識する。 情報リテラシーを身につける必要性を理解する。 契約・多様な販売方法や支払方法・問題解決について理解する。また、被害にあった場合の解決方法についても理解する。 消費者の権利と責任について理解し、消費者において自主的に行動することの必要性を理解する。 消費・環境に配慮した生活スタイルについて考え実行する。 日々の暮らしの中で、持続可能な社会をめざした行動をすることができるようにする。 	○	○	○	
	3	1	経済的に自立する	暮らしと経済 将来のライフプランニング	<ul style="list-style-type: none"> 家庭経済を国民経済、国際経済の関係性に気づく。 家庭の収入や支出、予算生活の必要性について理解する。 生活設計とかかわらせて、長期の経済設計の必要性について理解する。 	○	○	○	
2		住生活をつくる	人間と住まい 健康に配慮した快適な室内環境 安全な住まい 持続可能な住まいづくり	<ul style="list-style-type: none"> 住まいはどのような機能を持ち、人の生活がその機能とどうかかわっているか理解する。 健康的な室内環境をつくるためのさまざまな要素を理解する。 安全で長く住み続けるために必要な適切な管理の方法を理解する。 家庭内事故や災害について学習し、安全な住まい環境について理解する。 日本の住宅政策の目的を理解する。 まちの課題について自分なりに解決策を考えることで、一市民としてまちづくりに参画する姿勢を持つ。 	○	○	○	8	
3		生活設計	<ul style="list-style-type: none"> 家庭基礎で学んだことを元に、具体的な人生設計をする。 仕事を選ぶうえで、大事にしたいことはなにか考える。 	○	○	○	1		

[illegible]

学科	商業科・生活福祉科	コース	学年	3	履修	必修	
教科	家庭	科目名	家庭総合	単位数	3	時数	105
教科書名（発行所）	家庭総合（実教出版）			副教材（発行所）	ニューライブラリー２０２４（実教出版）		
目標	<ul style="list-style-type: none"> 人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭、衣食住、消費や環境など、生活を主体的に営むために科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を体験的に身に付けるようにする。 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定、解決策を構想・実践、考察するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。 様々な人々と協働し、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。 						

学期	月	内容のまとめ	単元 (実習項目)	単元の目標 (具体的目標)	評価の観点			配当 時数	主な評価方法							
					I	II	III									
1	4	第3章 子どもとかわる	1節 子どもとは	・育児を学ぶ意義について理解する。 ・10代の健康が、将来生まれてくる子どもにつながっていることを理解する。 ・子どもの世界と出会うことによって、自己理解を深める。			○	20	中間考査 期末考査 プリント提出 出席 取り組み状況							
			2節 子どもの発達	・子どもの誕生、子どもの心身の発達と特徴について理解する。 ・子どもは、親や保育者などの身近な大人とのかわりあいのなかで発達していくことを理解する。	○	○										
			3節 子どもの生活	・子どもの食生活・衣生活、遊びについて理解を深める。	○		○									
			4節 子どもをはぐくむ	・子どもを生み、育てる意義について理解する。 ・親子関係の課題を理解し、解決に向けて考えることができる。	○	○	○									
			5節 子どものための社会福祉	・子育てのための国や地域の社会的支援について理解する。 ・子どもの権利と福祉の歩みについて理解する。	○	○										
	6	第6章 食生活をつくる	1節 人と食物のかかわり	・食事の意義を理解する。 ・日本の食文化形成および和食の特徴を理解する。	○	○		35	中間考査または 期末考査 プリント提出 被服製作作品 出席 取り組み状況							
			2節 私たちの食生活	・自身の食生活の現状把握と今後の課題を理解する。 ・健康で豊かな食生活をはぐくむための気づきや工夫を理解する。	○		○									
	7	3節 栄養と食品のかかわり	・栄養素の種類と働きやそれぞれの栄養素が多く含まれる食品についての基礎的な知識を身につける。	○		○										
				4節 食品の選び方と安全	・旬の食材を考え、旬の時期がなぜよいか学ぶ。 ・食品衛生（食品の選択、食中毒、食品添加物）について学ぶ。	○										
				5節 食事の計画と調理	・食事摂取基準、食品群別摂取量などを用い、家族の献立作成を行う。 ・調理を通して、基礎的な技術を身に付け、食事マナーを実践する。	○	○			○						
6節 これからの食生活を考える				・食品の自給率や食に関する環境問題について考える。 ・環境に配慮した食生活（食品ロス等）について考える。		○										
2	第7章 衣生活をつくる	1節 人と衣服のかかわり	・人はなぜ衣服を着るのか、衣服が持つ機能や安全性についての知識を身につける。 ・だれもが快適な衣生活を送るための要因を理解する。			○	30									
		2節 衣服の素材の種類と特徴	・衣服素材の種類、繊維の種類と特徴、衣服素材の性能や加工技術について理解する。	○	○											
		3節 衣服の選択から管理まで	・衣服の入手から処分までの流れを学び、衣生活の計画を考える。 ・洗剤・漂白剤・防虫剤などの種類について学ぶ。	○	○											
		4節 持続可能な衣生活をつくる	・環境に配慮した衣生活について世界の動向を学び、自分たちができることを考える。	○		○										
		5節 私たちがつなぐ衣生活の	・日本の和服について理解する。	○		○										
		6節 衣服をつくろう	・袋物の製作を行い、基本的な縫い方を理解する。	○	○	○										
3	12	第8章 住生活をつくる	1節 人間と住まい	・生活と住まいの機能とのかかわりについて考える。	○			20	期末考査 プリント提出 出席 取り組み状況							
			2節 住まいの文化	・日本の伝統的な住居の、建築的な工夫や暮らしの工夫を見つける。 ・日本の住まいの変遷、生活様式などを理解する。	○	○										
			3節 住まいを計画する	・ライフステージによる住まいの変化について考える。 ・快適な住まい方を考え、平面計画を立てる。	○	○	○									
			4節 健康に配慮した快適な室内環境	・室内環境と健康のかかわりを考える。 ・快適な室内環境について、日照・採光、通風・換気、騒音、冷暖房などの要素を学ぶ。	○	○										
			5節 安全な住まい	・家庭内事故や災害について学習し、安全な住まい環境について理解する。	○	○										
			6節 持続可能な住まいづくり	・住宅政策の事例について調べ、住まいの課題を考える。 ・居住問題についての法律・制度・施策を調べる。 ・住まいとエネルギー、まちづくりなどの観点から、持続可能な住まいとは何か考える。	○											
	2															
										3						

[illegible]